… 雨でも休まず：第１４４回～第１４５回 …

「若柳・嵐山の森」から

●定例１　：１１月　６日（第一土曜日）：森林整備に注力：参加費３００円
　＊　協力協約Ｄ地区の間伐作業
●定例２　：１１月２１日（第3日曜日）里山交流の森：参加費５００円
　＊　飯は主食のみ持参。自分の食器（碗・皿・箸）を持ってくる事。

□“必ず申込”ボランティア保険等。T&F ０３－３４１１－１６３６
　＊　初参加：ＪＲ相模湖駅前：９時１５分まで。090-7260-8101（緑のダム）
　＊　服　装：汚れて良い格好、着替え。作業手袋は皮製が良い
　　☞　足元の滑らない履き物。
　＊　持　参：保険証の写し。森活動を楽しむ“ゆとり”と怪我しない心構え。

「非営利活動株式会社」と言う考え。

・持続的森林経営には、森林自体が経済性（お金を生み出す力）が必要だと「新しい森林産業のの創出」を目指している。経済社会では、元入れ：資本＝投資して、利潤を得て再生産＝再投資の資金を確保しつつ利益の分配＝配当する事が目的である。
・ところで最近、株式組織だが利益を配当しない非営利型株式会社（ＮＰＣ：Non profit companey）が出現した。岡山の「株式会社立：朝日塾中学校」である（10日の日経朝刊）。収益は教育ＮＰＯに寄付するとの事。

・配当のない株式会社の発想は、原価の無い製品が売れて支援（シェン）と言う経済価値を生むと思った狛江の松山仲間や鎌倉の兼松仲間の発想に似ている。
・清水仲間と須藤仲間が「間伐材活用：キット小屋＋木質バイオマスエネルギー床暖房の実用化」に取り組んでいる。商品化して当会ＮＰＯ活動の資金を作ってくれるらしい。既成概念に囚われない仲間たちは大胆且つ自由自在に新しい事に挑戦する。

・森林ＮＰＯには、既存の価値概念にないものを生む力があるらしい。森の中の喫茶「ムササビ亭」も繁盛している。やってくれるじゃないか“森の仲間たち”。

● 定例活動報告１／１０月　　２日（第一土曜日）：森林整備

Ｄ地区整備に枝打ち梯子を準備する。

台風一過、爽やかな快晴の秋日和になった。第一土曜日の参加者は、ジリジリと増加の傾向を見せている。

初参加は富士通グループの女性２人・男性２人計４人、計38人参加。こんなに参加者が増えて“困ッチャウナ～”と言う嬉しい悲鳴。

・森林整備班に初参加全員を加え２６人が協力協約Ｄ地区に入った。森林インストラクターの鈴木敏美さんが初参加者に間伐技術を安全には万全の構えで付きっきりで教えていた。女性を含む初参加者にチェンソーの使い方など教える豪胆さに驚かされるが、細心の注意の持ち主の鈴木仲間だから出来る事でいつもと言う訳には行かない。この真剣さに参加者たちは、何かを掴んでくれているように思う。Ｄ地区は２度目の間伐作業だが、樹間が空いて随分と明るくなっている。こんな作業は、成果がハッキリしていて楽しい。

活動の参加規模が殆ど正規の第三日曜日活動の規模に近づいて来ている。隔週ごとに大勢の都会人がこの静かな里山にワイワイと集まるのはどうだろう。森のオーバーユース（森の使い過ぎて荒らしてしまう）と言う事もある。

活動の第一土曜日を「小原本陣の森」に移す事も検討したいと園田隊長に相談したら自分もそんな事を心配していたと１０月１１日（体育の日）は、古道と小原の森視察と言う事にした。

● 定例活動報告２／１０仮設１７日（第三日曜日）：里山交流

快晴、この夏の暑さが嘘のよう。爽やかな森の冷気に心も軽い。参加申込は、５４人だが「緑のダム体験学校」に２６人参加。当日参加もあって朝礼中に数えてみたら８３人。

・森林整備班：協力協約Ｄ地区の間伐、枝打ち。

森がズンズンと明るくなって行く。急斜面の蜜植したこの整備は、契約期間の３月までに終わりそうにないと臨時の作業日の提案があった。

・「新月のサワラの大木」を富

沢さん等、５人掛りで森から引き出した。森の中では余り大きいとは感じなかったが、引き出して見るとその大きさに圧倒された。このサワラ、直径４５ｃｍ、１３０年の年輪が数えられた。これまでの伐倒木は、全部、痛んだ間伐木の処理であったが初めての本格的な伐倒であるから品質の確認をして当会第一号の産地・品質保証をした津久井材として畑野清司さんなどに使って貰う事にする。自分達で引き出した材を自分で保証する訳にもいかないので相模湖町(産業建設部) から認証を受けるシステムを考える。その他の地域材は、非営利活動を進めている当会が第三機関として産地証明すれば嘘の入る余地はない。品質もチェックして津久井材の信用を高めたい。

・体験学校班：初参加森林体験の２６人は嬉しいが、満遍なくお世話するのが大変。生態系調査班全員が応援に入って素晴らしい一日になった。特に林道脇に積んでおいたチップの山の中の昆虫探しは、宝物を掘る気分で大いに盛り上がった。カブト虫の幼虫などいろんな虫が出てきた。

・炭　窯　班：終日、原料にする竹を割る作業に注力。
主なメンバーの岡仲間と臼井仲間が夫々、フィリッピン、ヨルダンへの海外勤務になるので数年、留守になる。炭窯参加者の大募集を掛ける事にする。

・お 花 畑 班：班長の丸茂仲間、清水仲間が静岡で開催した「花の万博」に出張で今月は、お休み。

ムササビ亭：清水・丸茂仲間が留守なので急遽、伊藤小夜子仲間に臨時店長を強要し、岡仲間が自ら名乗り出てマスターを勤めた。この二人なら店は、繁盛するに決まっている。大いに盛り上がった。当会は、何が起こっても直ちに穴がうまるのが面白い。

＊ムササビは、里山に住んでおり人を余り怖がらない。「ムササビ亭」と称するからには客にもなって欲しいと篠田さんがこの近くに住まいを準備中と報告した。

・武蔵工大／環境情報学部：小堀研究室。

森林調査記録で山地に酸性雨の影響があると報告されているが裏付けになる根拠が曖昧だからと武蔵工大が当会の生態系調査班と提携していろんな調査を始めた。１年間を通じての経時雨量測定、ＰＨ調べ、地下水水質検査、降水の植物に与える影響、土質検査などである。
工大から古井戸を探してくれと依頼を受けたが今時、そんなものが残っているかなぁ～と心配したが、偶然にも農家の裏庭に一つだけ残っているとの情報を得た。Ｄｒ、Ｈｕｍと学生がやって来ていろんな計器を設置して行った。
活動は、ますます内容が濃くなる。

地下水の水質検査のために汲み上げる
飲んでみたが美味な湧き水であった。

◎運営会：森林ボランティア活動５年、来年４月には、法人化して三期目、８年目に入る。ここらで活動の見直しが必要と来年の事業計画を立てるためにお集まり願って以下を相談した。

１、森をつくる活動

・森林整備／森林の公益性、多様性を生かした新しいスタイル、例えば当会の得意とする生態系保全を組み込んだ森林整備事業を考え県に提案する。

＊　安全対策、救急体制／コアになる指導員講習会の実施、安全システムの構築と研修を行う。定期的な講習会実施。引き続き、小沼仲間と守屋仲間にお願いする。

＊　小原の森：「若柳嵐山の森」の参加者が増え過ぎたので一時中断している「小原本陣の森」を再検討する。

＊　これらの活動は、整備ＯＪＴ研修と平行して「担い手育成」も進める。

２、森をいかす事業

1)　流域材事業：流域材建築物推進を、黒川教授のご指導で進めるが、間伐材の活用製品開発も行う。

2)　環境教育事業：「緑のダム体験学校＋生態系保全」活動は、各方面の関心を呼ぶ事となりこれらと協働して更に充実する。

3)　甲州古道復活；相模湖町、県など協働体制を推進する

● 臨時活動報告１／９月２５日～２６日：やまなみ五湖、キャンペーン

ＮＰＯ法人緑のダム北相模を広報する。

県；企画部恒例の「やまなみ五湖キャンペーン」に参加した。２日間、緑のダムが核となっている「森林と都市生活者をむすぶ活動・協議会/準備室」の新たな試みとして上流・下流を繋ぐ５団体（大月・森つくりの会、甲斐東部材組合、さがみ湖・森つくりの会、川崎幸まちつくり研究会、大工棟梁を育成する"SHS友の会、神奈川建具組合」）で参加した。参加者、２日間累計４６人。確かな手応えを感じた。

相変わらずの鋸引き体験は、大賑わい。

また、原材料費なし、労務費なしの製品が売れて行くが別の不思議な現象がここでも別の形があった。即ち、鋸引きや竹引きした人達が「アリガトウ」と１００円(ｼｪﾝ)、２００円(ｼｪﾝ) と小銭を入れてくれるのだ。過日、平塚の七夕祭りでは、竹トンボを上手に作った人が「これも売って頂戴。アリガトウ」と１０００ｼｪﾝを募金箱に入れてくれた。今回、収入は、１２５、０００ｼｪﾝ。此の収入で海老名に来てくれた４６人の仲間たちにガソリン代、高速代など交通費実費、昼食補助として各１、０００円づつを支払い、６、０００円も残った。ボランティアでも、こんな活動に全くの自腹では力が入らず動けない。

● 臨時活動報告２／１０月１１日（月・体育の日）：古道探訪（高尾～小仏峠～小原本陣）

「甲州古道」を改めて考えてみようと小雨模様のＪＲ高尾駅前に集まった。１６名参加。登山口から整備された登山道を約４０分で小仏峠に到着。

峠茶屋のご主人が昨年春、亡くなって以来、無人になって軒が傾き掛かっている。…と思いきや、お年寄りが一人、コツコツと小屋と周辺の造作物の手入れをしていた。原口菅生さん(75)。
定年来、約２０年間、週に何日か通ってそうしている由。昨年、当会もここに道標を２基、設置したが実は、会として無人小屋を取り壊して何か関所遺跡らしきものをつくる事を県に申請したいと思っていた。ここは、参勤交代の甲州・諏訪・高遠の大名、松尾芭蕉、安藤広重、近藤　勇、大隈重信、明治天皇など歴史の幾多

の往来が有った。この辺りをコツコツと補修する原口さんの行為は、古い事も大切にすることだと改めて気付かせてくれた。

ここの持ち主は、小林さんと言うが、小林さんだって壊されるより補修してくれる方が嬉しい。全員で「宜しくおい願いします」と挨拶して相模湖町へ下山した。

小仏峠山頂で汗を拭く

下山の途中、昨日、強襲・直撃した台風のため処々に倒木が道を塞いでいたがそこはそれ、森林ＮＰＯには、抜かりがない。持参の手鋸で手際良く片付けながら下った。下りきった所からは、中央高速や鉄道で分断され藪に埋もれた古道位置を斎藤仲間が説明しながら小原本陣に向かった。これら藪に埋もれた古道復旧も公団や道路管理事務所と交渉を始めるが、普段の森林整備活動とは異なった楽しい行程であった。約１年半掛けて調べた資料を持参して来週、相模湖町と古道復旧計画を相談する。

遅めの昼食後、「小原本陣の森」視察は、高速道路工事が入っていて予定変更、萱場と言われる広葉樹林を小原尾根までシャニムニ直登し、尾根二股から脇尾根をシャニムニ下って一昨年見た、あの永井亮一さんの管理する杉美林に出た。仲間たちは、相模湖町にこんなに良く手入れされた森があるのに驚いていた。

● 製品開発：新たな試み

・間伐材キット小屋（清水仲間の取り組み）＋木質バイオマス床暖房（須藤仲間の取り組み）

小屋は、作業道具の保管や参加が増える女性仲間の着替え場所確保など予て強い要望が出されていた。清水仲間が先ず手を挙げてくれて、次いで昨年、県の科学技術振興課と木質バイオ熱源研究に参加して成果を上げた須藤仲間が研究の成果を床冷暖房システム開発の実用化研究の場にしようとプロジェクトを組む事とした。

小屋は組み立てキット式にして売れる商品を目指す。これに簡易床冷暖房システムを組み込なら差別化した競争力のある商品が生まれるに違いない。開発資金は、自然保護団体が出してくれる。

＊森仲間の皆んな、材の引き出し他、成功への協力を頼む。

● 相模湖町への協働提案

・　県の進める「水源環境の保全・再生」推進を水源地：相模湖町から協力支援する。わが国最初にして最大・長期の同政策は、水源地が立ちあがらねば成功出来ない。当会の協働提案の内容は…

1、地域の森林整備をしつつ担い手育成を進める。
　・相模湖町や森林組合と協力してその対策を立案し県に協働を申し入れる。
2、津久井材を出荷し県産材建築を推進する。
　・林業に関わる全ての人々と協力して推進する。
3、山間流域（相模湖~藤野~上野原~大月）の活性化のために各地を繋ぐ「甲州古道の復活」に取り組む。
　・これらは都会の人々に森の現状を知って貰らいつつ流域の文化・芸能・伝承を残し後世に引き継ぐ活動である。

＊この話し合いは夫々、忙しいのに園田・丸茂・斎藤・篠田仲間が参加してくれた。一杯の感謝だ。

何んと言ったって危険防止

情報提供　永田国弘

造材／６５歳・男性。造材作業中、他の作業者が伐倒した杉立木の倒れる方向が急に変わり、作業中の背中を直撃。

素材生産者の「さとう草木」の作業現場では作業員同志が相当の距離を隔てて作業しており伐倒の際は、必ず笛で合図している。「あれを取り入り　ければ」と思っていたが矢先過日、須藤さんからその提案がメールで送られて来た。すると何人もの仲間から間髪入れず賛同のメールが発信されて来た。皆んな同じような心配をしていたのだ。「事故は自己責任、注意しろ〃」だけでなく事故の起こらないシステム作りを改めて真剣に取り組まねばならない。

伝説小栗判官照手姫

（小原底沢に伝わる郷土伝説）

甲州道中小仏峠から底沢の地に下山、右折し迂回路を行くと美女谷橋に出ます。ここより町道底沢線を上り美女谷温泉を右に曲がり西入り沢を三百メートルほど行くと、郷土伝説「照手姫」の所縁の「七ツ淵」が有ります。この「照手姫伝説」に付いて略記しましょう。

「新編相模の国風土記稿」に「往昔此處より美女出たれば、遂に地名となる」と記されています。この美女とは紛れもなく照手姫です。照手姫は北面の　武士夫婦が、観世音に願を掛けて出生しました。北面の地こそ底沢であると出生秘話が伝える郷土伝説になっています。

成長した照手姫が、髪の毛を洗ったと言われる七ツ淵の化粧の岩があり、伝説にに相応しい幽玄な場所です。照手姫は、両親が早くこの世を去ったので　、底沢の地を離れました。

話は転じて常陸（茨城）の小栗城主小栗判官満重は武勇に秀でた武士でしたが、謀反の諌言により10人の家来を連れ商人に姿を変え城を逃れ、三河（愛知）の国への途路相州藤沢の辺りで、奇しくも盗賊横山太郎の家に宿を取りました。

横山太郎は、これは良い獲物なりと喜びました。丁度その折、庭の桜の古木に人を食いころすと言う荒馬「鬼鹿毛」が繋がれていました。これは良い馬なりと見事に乗り回しました。これを見て、横山太郎は尋常な事では持ち物全てを奪い取る事は出来ないしと思案して、酒に猛毒の「ムン毒」を入れて飲ませようと企てました。照手姫は密かにその事を判官に告げました。飲んだ家来たちは即死、無理強いされた判官は、唇に触　れただけで絶命しました。

その夜、遊行大空上人の夢の中に閻魔王の使いが現れ、判官は蘇生えると告げられ。死体が捨てられた上野ケ原に行ってみると僅かに手の指がそり帰るが、やはり命絶えたので閻魔堂のそばに埋葬しました。その夜、再び閻魔王が現れ閻魔堂に行ってみると生き返っていました。

次回は、その後の照手姫と小栗判官について記します。　　（文責　中里）

---

1)　11月６日（第一土曜日）森林整備に注力。
2)　11月21日（第三日曜日）里山交流

活動は、急展開している。創業期は、こんなものだが、内部の固めも平行して進めねばならない。協力して欲しい。

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…
そして、沢山のご意見、参加下さい。

名　　称／さがみ湖・森つくりの会（NPO法人緑のダム北相模／森林部会）
事務局／〒154-0023 世田谷区若林３－３５－９　石村
Ｔ＆Ｆ　０３－３４１１－１６３６
協働団体／セブンーイレブンみどりの基金

＊　ＨＰ：ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ００８．ｕｐｐ．ｓｐ－ｎｅｔ．ｊｐ／ｋｉｔａｓａｇａｍｉ
支援団体：ＷＷＦジャパン、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、住宅生産団体連合会